

第1 平成21年の気象概況

1 平成21年の気象の特徴

(1) 概況

前年（平成20年）12月末から1月前半は大陸から寒気が南下し、冬型の気圧配置となる日が多く、雨または雪が降った日もあったが、晴れる日が多かった。1月後半から2月にかけては、数日の周期で高気圧と低気圧が本州付近を通過し、冬型の気圧配置となる日は少なく、特に2月は寒気の影響が弱かったため気温はかなり高く経過した。

3月から5月にかけては、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は概ね数日の周期で変わった。3月と4月は共に中旬の気温がかなり高く、下旬は寒気の影響を受けたため、気温の変動が大きかった。5月は低気圧や前線の影響は弱く、降水量はかなり少なかった。6月は日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が弱かったため、梅雨前線が本州から離れた南海上に停滞することが多かった。このため、中旬以降は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

7月から8月前半にかけては、低気圧や梅雨前線、湿った気流や台風第9号などの影響で曇りや雨の日が多くなり、県内各地でたびたび大雨が降った。7月19日から26日にかけては日本海から中国・九州北部に位置した梅雨前線の活動が非常に活発となり、中国・九州北部地方で豪雨（平成21年7月中国・九州北部豪雨）が発生した。8月後半は日本海やオホーツク海の高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

9月は高気圧に覆われて晴れる日が多く、低気圧や前線の影響は弱かったため、降水量はかなり少なく経過した。10月の中旬は低気圧や前線及び2007年9月以来2年ぶりに本州に上陸した台風第18号の影響で曇りや雨の日が多かったが、その後は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

11月の中旬から下旬にかけては、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。下旬は高気圧と気圧の谷が交互に通過し、短い周期で天気が変わった。12月の中旬は日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。中旬のはじめは、低気圧が通過し雨となったが、その後は冬型の気圧配置となり晴れる日が多かった。また、17日頃から冬型の気圧配置が強まり、17日に広島で初雪（平年は12月7日）と初氷（平年は12月9日）を観測し、18日には初冠雪：極楽寺山（平年は12月8日）を観測した。下旬の前半は天気は短い周期で変わり、21日に広島で初霜（平年は12月7日）を観測し、26日には広島で黄砂を観測した。また、30日には日本海を低気圧が発達しながら通過し、31日は強い冬型の気圧配置となったため雪が降り、広島で2cmの積雪を観測した。

(2) 平均気温

年平均気温は、三入・世羅で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

(3) 降水量

年降水量は、大竹で平年より多く、三次・東城・油木・上下・世羅・府中・福山で平年より少なく、その他は平年並となった。

特に、内黒山で7月の月降水量が観測史上第1位となる684.5ミリ（従来の第1位は、1985年6月の663ミリ）を観測した。

また、月降水量が観測史上最も少ない値を記録したのは、道後山で8月の月降水量29.0ミリ（従来は、2007年11月の50ミリ）、君田で5月の月降水量43.5ミリ（従来は、2006年10月の44ミリ）、美土里で5月の月降水量26.5ミリ（従来は、2007年11月の32ミリ）、都志見で5月の月降水量28.5ミリ（従来は、2007年11月の32ミリ）であった。

さらに、東城で7月20日に日最大1時間降水量が観測史上第1位となる57.5ミリ（従来の第1位は、2004年8月9日の56ミリ）を、大竹で7月24日に日最大1時間降水量が観測史上第1位となる62.0ミリ（従来の第1位は、1987年7月14日の59ミリ）を観測した。

(4) 日照時間

年間の日照時間は、福山で平年より少なく、三次・三入・府中・生口島（因島）・大竹で平年より多く、その他は平年並となった。

特に、月間日照時間の多い方からの記録では、加計で4月の月間日照時間が観測史上第1位となる221.6時間（従来の第1位は、2007年5月の221.0時間）を観測した。

2 平成21年の各月の気象概況

【1月】 寒暖の変動が大きく、寒気がしばしば流入して、北部で大雪。

上旬 冬型の気圧配置や寒気の影響で、北部では雲が広がり雨や雪の降る日が多かったが、南部では晴れる日もあった。10日は冬型の気圧配置が強まり、北部を中心に大雪となり、高野で79センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪99センチ、八幡で33センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪が74センチとなった。

中旬 前半は、冬型の気圧配置が続いた。後半は、高気圧に覆われて概ね晴れたが、気圧の谷が通過した18日は雨が降った。12日は冬型の気圧配置が続く中、北部を中心に大雪となり、八幡で33センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪106センチ、高野で32センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪117センチ、大朝で25センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪36センチとなった他、広島でも最深積雪0センチを観測した。

下旬 はじめと終り頃は、低気圧や寒気の影響を受けて、雨や雪となる日が多かった。その他の日は、高気圧に覆われて概ね晴れた。23日から24日にかけて、冬型の気圧配置が強まり、23日には八幡で34センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪99センチ、24日には高野で21センチの降雪（積雪差の日合計）、最深積雪82センチ、広島でも2センチの降雪（降雪の深さの日合計）、最深積雪2センチを観測した。

月平均気温 大朝・加計・三入で平年より低く、東広島・福山・竹原・因島・大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 油木・世羅・府中・志和・東広島・河内で平年より少なく、その他は平年並か平年より多いか、かなり多かった。

【2月】 寒気の影響が弱く、高温。11日、12日、20日、21日に黄砂を観測。

上旬 高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、低気圧や気圧の谷の影響を受けて雨の降る日があった。

中旬 短い周期で天気に変化した。13日は、低気圧が発達しながら日本海を東北東進したため、中国地方では春一番が吹いた。19日から20日にかけて、四国の南岸を低気圧が東北東進した影響で、県内全域でまとまった降水量となった。

下旬 四国の南海上を通過する低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。

月平均気温 各地で平年よりかなり高かった。

月降水量 八幡で平年より少なく、高野・大朝・玉泊・加計で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

【3月】 下旬を除き寒気の南下はなかった。16日、17日、18日に黄砂を観測。22日にソメイヨシノが開花。

上旬 天気は周期的に変化した。3日は四国の南海上を通過した低気圧の影響で、高野で13センチの降雪（積雪差の日合計）を観測した。

中旬 高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、気圧の谷や低気圧の影響を受けて雨の降る日があった。13日から14日にかけて、日本海を低気圧が発達しながら通過した影響で、大竹で72.0ミリ、廿日市津田で52.5ミリ、倉橋で45.0ミリを観測した他、県内全域で25～40ミリの降水量となった。

下旬 高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、22日は日本海を低気圧が通過した影響で、大竹で66.5ミリ、廿日市津田で47.0ミリを観測した他、県内全域で5～25ミリの降水量となった。また、22日にソメイヨシノが平年（3月29日）より7日早く、昨年（3月25日）より3日早く開花した。

月平均気温 三次・庄原・三入・世羅で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。
月降水量 大竹で平年より多く、廿日市津田・倉橋で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

【4月】 高気圧に覆われることが多く、多照。5日にソメイヨシノが満開。

上旬 高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、期間の前半は、気圧の谷や寒気の影響を受けて雨や雪となる日があった。1日は、気圧の谷や寒気の影響で北部中心に雨や雪となり、八幡で34.0ミ(最深積雪8センチ)を観測した他、北部で5~30ミ程度の降水量となった。また、5日にソメイヨシノが平年(4月5日)と同じ、昨年(4月2日)より3日遅く満開となった。
中旬 天気は周期的に変化した。14日は、低気圧が四国の南岸沿いを通過した影響で、大竹で56.5ミ、内黒山で44.0ミを観測した他、県内全域で10~40ミ程度の降水量となった。
下旬 期間のはじめと中頃は、低気圧や寒気の影響で曇りや雨となり、北部の山間部では雪が降ったが、その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。25日から26日にかけて、四国の南岸沿いと日本海を低気圧が発達しながら通過した影響で、八幡で94.0ミ、内黒山で78.0ミ、高野で76.5ミ、君田で73.5ミを観測した他、県内全域で30~65ミ程度の降水量となった。
月平均気温 庄原・大朝・三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。
月降水量 八幡で平年よりかなり多く、高野・玉泊で平年より多く、その他は平年並か平年より少なかった。

【5月】 低気圧や前線の影響は小さく、少雨。

上旬 はじめと終わり頃は、高気圧に覆われて概ね晴れたが、中頃は気圧の谷や寒気の影響で、曇りや雨となった。5日は、気圧の谷や寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷雨となった。
中旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、17日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線が通過した影響で、道後山で26.0ミ、高野で25.5ミ、君田で23.5ミを観測した他、県内全域で5~20ミ程度の降水量となった。20日は広島で今年はじめて真夏日(日最高気温が30度以上の日)となった。
下旬 低気圧や気圧の谷及び寒気の影響で曇りや雨の日が多く、雷雨となった日もあった。
月平均気温 三次・庄原・大朝・三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。
月降水量 各地で平年よりかなり少なかった。

【6月】 3日ごろ、中国地方が梅雨入り。下旬は梅雨前線の影響で大雨。

上旬 低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨の日が多く、雷雨となった日もあった。10日は、低気圧や梅雨前線の影響で、廿日市津田と大竹で74.5ミ、広島と都志見で49.5ミ、三入で47.0ミを観測した他、県内全域で10~40ミ程度の降水量となった。中国地方は3日ごろに梅雨入り(平年6月6日ごろ、昨年5月28日ごろ)した。
中旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かった。はじめと終わり頃は、気圧の谷の影響を受けたが、天気の崩れは小さかった。
下旬 はじめと終わり頃は、気圧の谷や梅雨前線の影響を受けて、曇りや雨となり、雷雨となった日もあった。中頃は高気圧に覆われて概ね晴れた。22日は、梅雨前線が日本海から中国地方を南下した影響で、高野で162.5ミ、道後山で121.5ミを観測した他、県内全域で15~100ミ程度の降水量となった。また、29日から30日にかけて、梅雨前線が中国地方に停滞して活動が活発となった影響で、三入で189.0ミ、都志見で158.0ミ、甲田で153.5ミ、佐伯湯来で148.0ミ、廿日市津田で145.0ミを観測した他、県内全域で35~140ミ程度の降水量となった。
月平均気温 高野・庄原・大朝・三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。
月降水量 高野で平年より多く、その他は平年並か平年より少ないか、かなり少なかった。

【7月】 梅雨前線の活動が非常に活発化し、中国・九州北部地方で豪雨（平成21年7月中国・九州北部豪雨）が発生。

上旬 梅雨前線の影響で曇りや雨となる日が多かった。10日は、梅雨前線が中国地方を南下した影響で、生口島で86.5ミ、竹原で78.0ミ、内黒山で76.5ミ、呉で73.0ミを観測した他、県内全域で20～70ミ程度の降水量となった。

中旬 梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、雷を伴った大雨となる日もあった。17日は、山陰沖に停滞する活動が活発な梅雨前線の影響で、高野で130.5ミ、道後山で110.5ミ、君田で93.5ミを観測した他、県内全域で15～60ミ程度の降水量となった。19日から20日にかけては、中国地方に停滞する活動が活発な梅雨前線の影響で、内黒山で202.0ミ、八幡で189.0ミ、廿日市津田で164.0ミ、君田で142.0ミを観測した他、県内全域で20～130ミ程度の降水量となった。

下旬 梅雨前線や寒気の影響で曇りや雨となる日が多かった。24日から27日にかけて、南から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、中国地方に停滞する梅雨前線の活動が活発となり、南部の所々で総降水量が200ミを超えた。

月平均気温 加計・三入・広島で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量 志和・福山で平年より少なく、その他は平年よりかなり少なかった。

【8月】 10日、四国の南海上を台風第9号がゆっくり北北東進し、県内の一部で大雨。中国地方の梅雨明けを当初「8月4日ごろ」と発表していたが、事後検討を行い「特定しない」とした。

上旬 寒気や南からの湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多かった。10日は、台風第9号が四国の南海上をゆっくり北北東進した影響で、県内の一部で大雨となり、佐伯湯来では16時50分までの1時間に55.0ミの非常に激しい雨を観測した。

中旬 前半は低気圧の影響で、曇りや雨となる日が多かったが、後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

下旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日があった。29日は、大気の状態が不安定となり、河内で20時22分までの1時間に53.5ミの非常に激しい雨を観測した。

月平均気温 庄原・油木・三入で平年より低く、府中で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 甲田・河内・生口島で平年より多く、その他は平年並か平年より少なかった。

【9月】 高気圧に覆われることが多く、少雨、多照。

上旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、3日から4日にかけて、南からの湿った気流と寒気の影響を受けて、大気の状態が不安定となった。4日は、美土里で16時32分までの1時間に42.0ミの激しい雨を観測した。

中旬 前半は、気圧の谷や前線の影響で、曇りや雨となる日があった。後半は、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。12日は、前線が中国地方を南下した影響で、八幡で40.0ミ、油木で37.5ミ、府中で37.0ミを観測した他、県内全域で10～35ミ程度の降水量となった。

下旬 初めと終わりは、低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨となった。中頃は、高気圧に覆われて概ね晴れた。

月平均気温 府中・廿日市津田・生口島・大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 各地で平年より少ないか、かなり少なかった。

【10月】 7日から8日にかけて、四国の南海上を台風第18号が北東進し、北部を中心にまとまった雨。

上旬 高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線と台風の影響で、曇りや雨の日が多かった。2日は、日本海の低気圧からのびる前線が通過した影響でまとまった雨となり、日降水量は都志見で54.5ミを観測した他、県内全域で20～50ミ程度の日降水量となった。7日から8日にかけて、台風第18号の影響で北部を中心にまとまった雨となり、総降水量は八幡で67.5ミ、高野で54.5ミ、道後山で53.5ミを観測した。

中旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、14日は寒気を伴った低気圧の影響を受けて、八

幡で15時04分までの1時間に22.0ミリの強い雨を観測した。

下旬 高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、中頃は前線や台風の影響を受けて、曇りや雨となる日があった。

月平均気温 高野・三次・庄原・油木・三入・世羅・廿日市津田で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量 八幡で平年より多く、その他は平年並か平年より少なかった。

【11月】 2日から3日にかけて、冬型の気圧配置となった影響で、北部の一部で積雪。低気圧や前線の影響で、多雨。

上旬 高気圧に覆われて概ね晴れたが、初めと終わり頃は、冬型の気圧配置や気圧の谷の影響で雨や雪が降った。2日から3日にかけて、冬型の気圧配置となった影響で、北部の一部では積雪となり、道後山では2日に42.5ミリの日降水量を観測した。10日は、九州の西海上の低気圧や前線の影響でまとまった雨となり、内黒山で59.0ミリ、佐伯湯来で56.5ミリ、大竹で53.5ミリを観測した他、県内全域で25～50ミリ程度の降水量となった。

中旬 低気圧や気圧の谷の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。低気圧の通過後、冬型の気圧配置となった。13日から14日にかけて、前線を伴った低気圧が四国の南海上を通過した影響でまとまった雨となり、八幡で72.0ミリ、内黒山で63.5ミリを観測した他、県内全域で35～60ミリ程度の降水量となった。

下旬 天気は短い周期で変化した。24日は、四国の南海上の低気圧や前線の影響で、大竹で24.5ミリを観測した他、県内全域で5～20ミリ程度の降水量となった。

月平均気温 高野・庄原・加計・府中・福山・生口島・大竹で平年より高く、その他は平年並となった。

月降水量 各地で平年より多いか、かなり多かった。

【12月】 中旬後半から下旬はじめにかけて、冬型の気圧配置が強まり、北部中心に大雪。17日に広島で初雪と初氷を、18日に初冠雪（極楽寺山）を、21日に初霜を観測。26日に黄砂を観測。

上旬 天気は周期的に変化した。10日は、前線や低気圧の影響を受けて、内黒山で31.0ミリ、佐伯湯来で30.5ミリ、加計で30.0ミリ、廿日市津田で29.5ミリの降水量を観測した。

中旬 初めは低気圧や寒気の影響を受けたが、中頃から冬型の気圧配置が続き、17日から20日にかけて北部では大雪となり、17日の降雪（積雪差の日合計）は八幡で21センチ、18日の降雪（積雪差の日合計）は大朝で18センチを観測した。なお、17日に広島で初雪（平年は12月9日）と初氷（平年は12月9日）を観測し、18日には初冠雪：極楽寺山（平年は12月8日）を観測した。

下旬 天気は短い周期で変化した。31日は冬型の気圧配置が強まった影響で、県内各地で雪となり、八幡で17センチ、大朝で16センチの降雪（積雪差の日合計）を観測した他、広島でも2センチの最深積雪を観測した。なお、21日に広島で初霜（平年は12月7日）を観測した。さらに、26日には広島で黄砂を観測した。

月平均気温 大竹で平年より高く、三入で平年より低く、その他は平年並となった。

月降水量 甲田・世羅・志和・東広島・河内・福山・広島・竹原・生口島・大竹・呉・倉橋で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。

注) 生口島は、平成21年2月27日に因島から移設し、統計を接続した。